

## 一人一人にあった適切な教育が大切です

発達障害のある子どもにとって教育が一番大切です。早期からその子にあった支援や療育を継続し、コミュニケーションや社会的ルールを学んでいくことで、こだわりや多動や注意集中のしにくさ、対人関係など、かなりの部分が改善されていきます。

このことは、世界的に多くの研究からも明らかになっていて、環境調整や教育によって障害を軽減したり適応状態をよくしたりすることができます。

## 年齢相応の友達関係を築きにくい

みんなで  
遊べる  
スペース

P 20

### 孤立していて集団に入れない場合



- まずは大人が媒介となり遊びを展開し、そこへ仲間を呼び込む
- かかりやすい友人関係からはじめる  
下学年の子の世話などは得意な場合がある  
大人とはかかわれる場合、それでもOK!  
おとなしいタイプの子や興味を共有できる子、批判的でない子、興味を共有できるグループから
- 発達、成長するとかかわり方も変化し、積極性が新たなトラブルになる場合もあるので友人関係のルールを教える

## 周囲に配慮せず自分中心の行動をしてしまう

### 指示が理解できていない場合



- 「個別的に」「注意を引いて」「具体的に」伝えること
- 一度にたくさんの指示が入らないこともある
- 要求水準を下げしてみる
- 絵や文字にして視覚的に伝える

## 好きなことをやめるのが苦手な場合



- ・事前の約束(タイマーなど)を使う
- ・守れたらほめる

ごちそう  
さまの  
時間は



P 3 4

## 言われたことを場面に応じて理解するのが難しい



- ・社会的な文脈の(場面に応じた)理解を支援する  
コミック会話などで文脈を具体的に文章や絵にして伝える
- ・社会的なふるまい方をルールとして学習する  
ソーシャル・スキル・トレーニング (SST)
- ・分かりやすく具体的に個別指示する

## 要求があるときだけ自分から人にかかわる



- ・「〇くんに～と言ってきて」など、  
間接的にかかわりを促す、役割交代、  
順番待ちなどの社会的スキルを学ぶ

自閉症のコミュニケーションの発達は、要求  
→叙述の順をとることが多いのです



## 難しい言葉を使うが、その意味をよく分かっていない



- ・ その子の言葉の理解度について家族や教師が共通理解をする
- ・ 適切な言い方をルールとして教える

## 大勢の中での会話では、誰が誰に話しているのかが分からない



- ・ 誰に話しているのか明確にする  
「みんなで～します」  
「〇くんは～します」
- ・ 個別指示を取り入れる

自分ではないのに  
自分が怒られている  
と思ってしまうこと  
もあるようです。



## どのように、なぜ、といった説明ができない



- ・ 順序立てて聞く
- ・ 絵にしたり、紙に書きながら聞く

みんなで  
遊んだよね



P 2 4

## 冗談や皮肉が分からず、文字通り受け取る



- ・ あいまいな表現や比喻を避ける
- ・ しかるときにも表情に気を付ける

「そんなことをする子は、もうこなくていい」と言われると、本当にこなくていいと思ってしまうことがあります

## 相手が嫌がることをわざと執拗に繰り返す



- ・ 不適切な行動は無視し、代替りの行動を提示する
- ・ 適切なかかわり方や話題のふり方を教える

先生や友達とかかわりたいけれど、話題がみつからなかったり、かかわり方が分からないようです

## 普段通りの状況や手順が急に変わると、混乱する



- ・ 予定を視覚的に示す
- ・ 変更も視覚的に示す
- ・ 約束をやたらと変更しない

今日は何をするのかな



P 1 8